

第 11 回金融教育に関する小論文・実践報告コンクール

**特賞**

**実践報告部門**

**中学生に起業家精神を養い  
育てるための授業実践**

～地域人材の活用から見える経済分野における社会参画～

埼玉県・春日部市立豊春中学校 教諭 小谷 勇人

**知るぽると**

[www.shiruporuto.jp](http://www.shiruporuto.jp)

© 金融広報中央委員会 2014

## 1. 研究主題設定の理由

我が国の経済状況はリーマンショック、欧州の経済危機などに端を発し大変厳しい状況に直面していた。2012年の政権交代によりアベノミクスと呼ばれる経済政策から立ち直り始めたが、実感としてはまだまだという状況にある。このような中、21世紀の日本をたくましくリードするチャレンジ精神旺盛な人材を育てることが求められている。その答えとして、中学校社会科の公民的分野において「起業家教育」を授業に取り入れることを考えていた。

『起業家教育』への注目は、1990年代にアントレプレナーシップ教育として、欧米諸国のモデルが紹介された<sup>1)</sup>ことから始まり、「旧通商産業省産業政策局の『アントレプレナー教育研究会報告書』(平成10年7月)や教育改革国民会議の『教育を変える17の提案』(平成12年12月)の中で、早期教育段階からの起業家精神涵養の重要性が上げられたことにより、学校教育への導入に弾みがついた。」<sup>1)</sup>この結果、全国のいくつかの学校では経済産業省の実践協力校としての依頼から各都道府県教育委員会が委嘱<sup>2)</sup>するなどの形で取り組まれてきた。しかし、大半の学校では「起業家教育」の言葉は定着していないのが現状だ。

今まで方法知としてのアプローチから「起業家教育」の取り組みは、総合的な学習の時間において扱われることが多かった。しかし、現在の学習指導要領での教育課程では、どの学校でも総合的な学習の時間の授業時数は減っている。社会科においては3年次に週4時間の授業になり、発展的な内容として「起業家教育」を取り入れる時間数ができたと考えている。また、地域で起業し活躍する専門家をゲストティーチャーとして呼んで行う講義をすることも、大きな教育的効果をもたらすのではないかと考えている(資料1)。

次に本単元は、平成24年度全面実施の中学校学習指導要領社会科においてどのように位置づけられているのかを論じていく。

内容(2) 私たちと経済 ア 市場の働きと経済 身近な消費生活を中心に経済活動の意義を理解させるとともに、価格の働きに着目させて市場経済の基本的な考え方について理解させる。また、現代の生産や金融などの仕組みや働きを理解させるとともに、社会における企業の役割と責任について考えさせる。その際、社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について、勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法の本質と関連付けて考えさせる。

三重大大学の山根栄次教授によると、上記のアンダーラインの箇所より生産者の立場から学ぶ経済教育の意義が見出されると言っている。山根教授は、生産者の立場から学ぶ「経済教育は、労働者ではなく、経営者を主人公として学習を展開していくことにより、より豊かな教育を実現していくことができる。」<sup>3)</sup>と考えている。

その理由として、以下の点を挙げている。<sup>4)</sup>

- ①生産者の生産活動における思いを追求していくことにより、子どもたちは生産者が思い悩んだ末、今の状態を選んだ、あるいは、選んでいこうとしているという考えに行き着く。
- ②生産者又は経営者は、選択に伴うメリットやデメリットをよく考えた上で意思決定している。生産者の選択の場面を子どもたちに考えさせることによって、その仕事に従事している人の思いに子どもたちは共感したり、あるいは疑問を感じたりする。
- ③生産者が意思決定を迫られる場面は、その生産者が時代の変化に対応することを迫られる場面である。日本のあらゆる産業において、生産者は、時代の急速な変化に早急に対応せざるを得ない状況に直面する。

以上の点から、企業を起こし・現実のものにし、経営していくという起業家の立場の学習をしていくことが一層鮮明に記憶に残る経済教育につながると捉えた。

知識基盤社会化やグローバル化が進む時代にある現在、世界や日本に関する基礎的教養を培い、国際社会を主体的に生き、公共的な事柄に自ら参画していく資質や能力を生徒にどのように育成させるかが大切である。現在の世界全体が大きくつながっている流れの中、三重大山根教授によると「これからの日本では、安価な普及品の生産のために工場での大量生産に従事する労働者としての資質よりも、消費者の需要を掘り起こし特色のある商品やサービスを新たにつくり出して販売しようとする起業家的資質が求められる。」<sup>5)</sup>

なお、現教育課程の中で、起業家的資質を社会科で生徒に育成しようとするためには当面次のことが必要であると山根

教授は考えている。

「社会科における産業学習（小学校）、経済学習（中学校）では、児童・生徒が、産業と経済に対する理解を深め、経済思考力・経済的な見方・考え方を身に付け、学業の終了後、経済活動に積極的に参加しようとする起業家的資質を獲得するために、起業家教育的な発想での授業より推進されるべきである。」<sup>5)</sup>

以上の起業家的資質を育成する意義より、本実践においては学習指導要領に準じた学習とともに、「中学校から会社をつくろう」の自作資料を使用した計 18 時間の起業する授業を計画した（資料 2）。起業をするまでの手はずを整えること、実際に起業をしている人の講義や自分たちの会社の講評やサポートを受けたりすること、実際に会社を運営することの 3 つの場面を通して、21 世紀の日本をたくましくリードするチャレンジ精神旺盛な人材を育成していくことを大きなねらいとしている。なお起業を体験する学習を通して、生徒たちが社会に出る際の心構えを養うこともできると考えている。以上の流れが、これからの国際社会において主体的・創造的に生きていく公民的資質の基礎を育てることにつながると考え、授業実践をしていく（資料 3）。

以上のような「生徒に起業家精神を養う授業実践」が重要であると考え、本研究主題を設定した。

次に、主題から考えた取り組みを記す。

- |                                                                                                                                                                                               |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 起業をするまでの準備を整えること</li> <li>(2) 実際に起業し、経営している方の講義を聞くことや自分たちの会社の講評やサポートを受けたりすること</li> <li>(3) 実際に会社を運営していくこと</li> <li>(4) 「起業する授業」の総括をすること</li> </ul> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

上記の段階的な取り組みが、起業家精神を養い、大きな教育的効果を得られると考えた（資料 4）。

## 2. 研究仮説について

研究仮説に向けて、起業家精神を持った生徒を育てるための手立てを二つに設定した。

### 手立て① 経済分野において社会参画の視点を取り入れた教材開発を行い、「自分事」として捉えさせること

「社会参画」という言葉は、平成 18（2006）年 12 月 22 日に公布・施行された改正教育基本法の第 2 条（教育の目標）において、「…主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと…」と明記されたことに端を発している。その後告示された学習指導要領は、この改正教育基本法の影響を強く受けて改訂されたものである。さらに、学習指導要領解説では、社会科改訂の趣旨として、社会参画に関する学習の充実が明示されている。「社会参画」の考え方は筑波大学の唐木清志准教授を中心に研究が長年蓄積されており、様々な授業実践が全国で展開されている。<sup>6)</sup> その中で、「社会参画」の考え方をういて実践した授業の多くが地理的分野の「身近な地域の調査」、そして公民的分野の「政治分野」となっている。もちろん、「社会参画」の考え方が如実に表れる単元であることは間違いない。

ここで考えておきたいことは、「社会参画」の考え方が経済分野でも取り入れることができるのではないかとということである。リーマンショックという世界の一部で起きた一見何の関係もない出来事が、私たちの雇用や生活に直接的な影響をもたらした（給料が減ってしまった等）という経験を数年前に私たちはしている。このような事態に対して、概要を説明できることに加えて主体的に参加（関わる）ことができる力がこれから必要であると考え。従来の社会科では、経済の仕組みや制度の学習にとどまっており、自分とは関係のないところで起きていることの学習だと捉える生徒もいるのではないかと考える。生徒の実態アンケート（資料 5）からも経済分野の学習が役立つものである（ニュース等で良く見聞きし身近なものである）ことが分かっているにも関わらず、あまり関心を持っていない実態が分かった。今こそ、「社会参画」の視点をもった経済分野での学習が必要であると考え。

なお、唐木准教授の提案する日本型サービス・ラーニングにおけるプロジェクトの学習段階に、「中学校から会社をつくろう」の指導計画を落とし込むと社会参画を目指した授業であることが分かる。日本型サービス・ラーニングにおけるプロジェクトの学習段階は以下の過程を経る実践となっている。<sup>7)</sup>



「Ⅰ. 問題把握」の段階では、「会社が利益を出して存続し続けるには、どのような会社運営をすることが良いのだろうか」という単元を貫く課題の解決に向けて、起業シミュレーションを通して利益を出すためには様々な手段や方策が必要であること、会議（合議の場）を通して会社の方向性を決めて決断していることを知る。

「Ⅱ. 問題分析」の段階では、共栄大学の学生から起業に際してのアドバイスをもらうことや、実際に会社を運営するための流れをつくり、自分の会社が本当に利益を出すことができるのかを分析していく。

「Ⅲ. 意思決定」の段階では、会社運営をしていくか従業員として支えるかを選択することや、起業をしている方からのアドバイスを元に自分で意思を決定し、起業準備を進めていく。

「Ⅳ. 提案・参加」では、実際に起業して一番利益を出す会社を目指して活動する。なお、振り返りということでまとめのプレゼンでは「儲かった、儲からなかった」だけで終始することなく、その理由をしっかりと分析して発表することまでを求めている。

以上の4つの過程を経ることで、社会参画の視点を持った授業として実践を行っていく。しかし、方法知に偏ったアプローチによる活動は社会科の授業としては「活動あって学びなし」の状態になってしまうと考えているので、内容知こそしっかり押さえた指導計画を作成していく。全体のイメージとしては、学習指導要領に書かれた基礎的・基本的な知識や技能を活用した社会参画の視点で取り組む授業となる（資料6）。

## 手立て② 総合的な学習と連動させ、方法知と内容知をリンクさせた学習計画を作成すること

社会科の学習において「会社が利益を出して存続し続けるためには、どのような会社運営をすることが良いのだろうか」という単元を貫く課題を追究していく。単元の流れとしては、新たな知識、概念や技能を習得していきながら、「起業を体験する学習」にて活用していき、価値判断力・意思決定力が高まっていくことをイメージしている（資料7）。

しかし、いかに方法知と内容知を分けて指導計画を練っていたとしても起業家の方から講演を聞くことやモノ・サービスづくりをする時間は社会科の時間のみで確保するのは難しいものと考えている。そこで、総合的な学習の時間の時間と連動させて、主に内容知を習得する社会科と方法知を習得する総合的な学習の時間と相互補完させる指導計画を考えた。

ここで、総合的な学習の時間のねらいを確認することで、「起業家教育」を育成する時間として活用できることを確認する。ねらいの第一である「自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成する」ことは、起業家が事業を起し、事業を進展させる上で必要となる資質・能力を表している。ねらいの第二である「学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探求活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする」ことは、能動的・探求的・創造的な起業家の生き方をモデルにできると解釈させる文言と捉えた。

このように総合的な学習の時間のねらいは起業家的資質の育成に良く適合していると言える。総合的な学習の時間と社会科との連動が起業家資質を大きく養う展開と考えリンクさせた。

以上の2つの手立てから研究仮説を「生徒が主体的に企業の経営に関わることで、経済に関しての生きた知識や技能を持ち、グローバル化の世の中をたくましくリードする起業家精神を養うことができるであろう」と設定し、実践を行った（資料8、9）。

## 3. 研究の成果と最終考察

本実践の成果は、経済の仕組みに関する関心や意欲を大いに刺激したことである。普通の授業での基本的な知識や技能を土台にさらに起業する実体験を積み重ねたことで、経済への興味・関心を確固たるものにできたと考えている（資料10）。

なお、実物販売会において利益を出すためには授業中だけでは大きな効果は出てこない、生徒たちが自然と気付く展開がこの活動では生まれた。具体的には、授業が進む中で消費者への販売までの思考や行動を分析したり、「流通の仕組み」を学んだ後は仕入れを工夫したりするなどの課題を自ら追究し解決していく連鎖的な学びが出てきた。このような問題解決的な学習は、社会参画の視点を持った授業だったからこそ、さらに効果をあげたと考えている。他にも、「企業競争の役割」という小単元を学習している際に、競争のメリットを学習した後に「起業を体験する学習」の時間に移った時に、実物販売会の時に同業種の他の企業との競争に対するの対策を練ることで、社会的事象が本当の意味で生きた経済に関する知識や概念となった。

毎時間、課題解決において自己の選択の場を設定し「起業を体験する学習」に絡ませて思考・判断させることで生徒の主体的な学習をもたらした。そのことが、学習に対するの興味・関心を大いに刺激したと考える。教師側からの積極的な

仕掛けこそが主体的な学習へ導くものである。

特に社長を経験した生徒の変容は大きかった。販売会においても常に選択・判断の連続を経験したことで経済に関する生きた知識や技能を身に付けた。中には地元の商業高校へ進学するきっかけとなった生徒もいたのが印象的である。

本校で学んだ起業家としての精神は社会に出る時に大きな力になるものである。本実践のような社会参画を目指した授業に取り組むことは、「公民的資質」の基礎を養うという社会科の究極の目標につながることにできると考えている。

注1) 吉安 司「『起業家教育』を取り入れた中学校総合的な学習の時間に関する研究」やまぐち総合教育支援センター 平成15年度 長期研修教員調査研究課題 URL <http://www.ysn21.jp/introduction/organ/h15pdf/yoshiyasu.pdf>

注2) 北海道教育委員会『北海道における起業家教育の実践～創造力豊かに自立心あふれる人を育む～ 指導・実践事例集』平成18年3月

注3) 山根栄次「中学校社会科公民的分野の経済学習における起業家教育導入の意味 - 知的所有権教育との関連から -」三重大学『平成15年度受託研究 大学における知的財産教育研究報告書』平成16年3月

注4) 山根栄次、後藤浩二「経済的意思決定力を育てる産業学習」『三重大学教育学部研究紀要』第58巻、平成19年

注5) 山根栄次「社会科と総合的な学習の時間における起業家教育の意義と方法」『三重大学教育学部研究紀要』第54巻、平成15年

注6) 小島弘道監修 唐木清志 西村公孝 藤原孝章著『社会参画と社会科教育の創造』学文社 平成22年

注7) 唐木清志『子どもの社会参加と社会科教育 - 日本型サービス・ラーニングの構想』東洋館出版社 平成20年

## 資料 1 「地域社会」で活躍する機関との連携

自分が住む郷土にはその地域ならではの起業家たちがいるものである。春日部市も例外ではなく、この地域で起業をして日本の中において大きな成功をおさめている会社もある。また、地元の共栄大学では大学生が「(有)かいしゃごっこ」という起業している会社もある。主に今回の取り組みは、「(有)かいしゃごっこ」と協力してモノづくりや会社の仕組みについてのサポートを頂いた。他にも、春日部市内には起業を考えている人のサポートをする埼玉県施設である創業支援ルームがある。ここに入居している方々やインキュベーションマネージャーをしている方などにもサポートを頂いた。様々な地域の先駆者から中学生の起業に対してサポートを受ける流れを組み実践をしていった。

社会参画の視点を持った取り組みは「地域社会」との関わりによって生まれるものと考えている。



共栄大学「(有)かいしゃごっこ」との連携



市内で起業をしている方からのお話

## 資料 2 単元の指導計画

### 1. 指導目標

- (1) 価格や金融に関する作業や、職業と仕事についての話し合いといった学習を通して、金融の働きや職業の意義、経済に関する諸問題などを自らの問題として捉えることができるようにする。
- (2) 起業を体験する活動を通して、市場経済の考え方や価格の決め方・役割を理解させるとともに、社会における企業の役割と責任について理解することができるようにする。

### 2. 評価規準

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価規準	個人や企業の経済活動に対する関心を高め、それを意欲的に追求し、個人や企業の経済活動について考えようとする。	社会における企業の役割と責任、社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について、個人や企業の経済活動に関わる様々な事象から課題を見だし、対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	個人や企業の経済活動に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取りたり図表にまとめたりしている。その結果を反映し、起業する活動で成果をあげている。	経済活動の意義、市場経済の基本的な考え方、生産や金融などの仕組みや働き、企業の役割と責任について理解し、その知識を身に付けている。

### 3. 単元の指導計画（18 時間扱い）

時	ねらい・学習活動等	評価の観点				○◇□☆ 評価規準
		関	思	技	知	
1	<p>単元を貫く課題「会社が利益を出して存続し続けるには、どのような会社運営をすることが良いのだろうか」</p> <p>【ねらい】会社がどのように運営されているかを理解させる（起業シミュレーション）。</p> <p>・シミュレーションを通して、企業を運営する際、限られた資源を基に選択していることに気付くことから、経済活動の意義を理解する。</p>	○				○グループで話し合うことを通じて、私たちの生活と経済活動の関係性や貨幣の役割について意欲的に追及している。
	<p>【ねらい】企業の役割や意義を知り、起業に向けて調査させる（起業準備①）。</p> <p>・共栄大学の起業をしている学生から起業の際の心構えやアドバイスを受けて、調査内容についての基礎的・基本的な内容について理解する。</p>				☆	☆企業の役割と意義についての知識を習得し、課題解決の方策を考え、企業として成立するための諸条件について理解している。

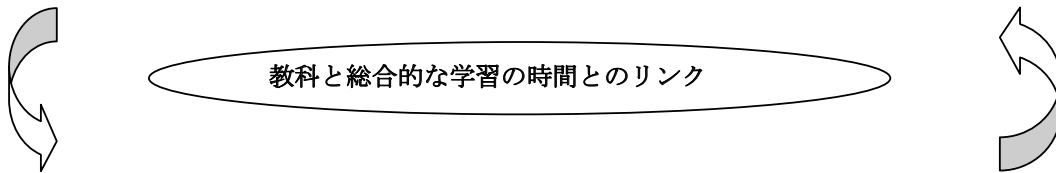
時	ねらい・学習活動等	評価の観点				○◇□☆ 評価規準
		関	思	技	知	
3	<p>【ねらい】 価格の働きを知り、起業に向けて調査させる（起業準備②）。</p> <p>・ 価格の働きを理解することと、商品の価格の決まり方について学習することから自分の会社の商品の適正価格を考える。</p>		◇			◇ 価格には生産資源を効率よく配分するシグナルの役割があることなどの市場経済の基本的な考え方を多面的・多角的に考察している。
4	<p>【ねらい】 起業に向け、消費者の生活の実態や問題点がどのようなものであるのか理解させる。</p> <p>・ 身近な事例を通じて、消費者が商品を購入する際、限られた資源を基に選択(意思決定)していることに気付く。</p> <p>・ 日常の消費行動に対する広告の影響に着目し、消費者主権について理解する。</p>	○			☆	○ 将来の家計支出の予測や改善について話し合うことを通じて、消費生活を向上しようとする態度が見られる。 ☆ 消費者問題の概要と、消費者の権利、消費者行政の役割について理解し、その知識を身に付けている。
5	<p>【ねらい】 安心で安全な消費生活を送るために、私たちが考えるべきことを調査させる。</p> <p>・ 将来の家計を予測し、検討することで、収入と支出のバランスと「かしこい」消費生活のあり方について理解する。</p> <p>・ 消費者の権利と保護について、具体的な被害例や対応策などを通して考え、自分の考えを表現する。</p>		◇		☆	◇ 消費者の権利とその保護の取り組みについて、多面的・多角的に考えている。 ☆ 消費者は限られた時間と収入を基に商品を選択していることや、家計における収入と支出、貯蓄の関係について理解し、その知識を身に付けている。
6	<p>【ねらい】 企業の種類を知り、自分の会社をどのような形態にするのかを調査させる（個人企画書作成①）。</p> <p>・ 自分の会社がどのような形態をとったらうまく軌道にのるか考えさせ、自分の企画書にまとめる。</p>				□	□ 自分の企業について様々な資料を収集し、活用して企画書にまとめている。
7	<p>【ねらい】 株式会社等の運営形態を理解し、自分の会社の運営について調査させる（個人企画書作成②）。</p> <p>・ 株式会社の仕組みについて理解するとともに、株価の変動やその背景について関心を持つ。</p>	○				○ 実際の社会における株価の動向や、その社会的背景について関心を持ち、意欲的に追究している。



時	ねらい・学習活動等	評価の観点				○◇□☆ 評価規準
		関	思	技	知	
8	<p>【ねらい】企業競争の役割を知り、どのような会社が生き残るのかを調査させる（個人企画書完成）。</p> <p>・製造業かサービス業かを選択させた後に、同じような企業との競争があることを知り、どのように売り込むことで生き残れるのかをワークシートに記述する。</p>		◇			◇持ちこんだ資料を有効に活用して、自分の企業の企画を考え、ワークシートに表現している。
9	<p>【ねらい】労働の意義について学び、経営者となるか従業員として経営をサポートするかを選択させる。</p> <p>・働くことの意義について考えた後に、一人ひとりの会社のプレゼンを聞き、経営者として進むか、従業員としてサポートするかを選択する。</p>			□		□どのような会社が儲かるかを分析し、自分の今後について有用な選択ができています。
10	<p>【ねらい】労働者の権利を理解し、よりよい企業にするためにできることを調査させる（企画書練り上げ）。</p> <p>・共栄大学の起業をしている学生から企画書へのアドバイスを受け、調査内容を改善する。 ・労働者の権利を守り、労働条件を改善するために、労働組合や様々な法律があることを理解する。</p>	○			☆	○振り返りの時間として、自分たちの会社がさらに利益を出すための手立てを意欲的に追及する。 ☆労働者の権利とそれを守る法律の整備、労働条件の改善について理解し、働きやすい職場に向けてその知識を身に付けている。
11	<p>【ねらい】日本の労働や雇用の特色や課題を調査させ、企画書に反映させる（会社としての企画書完成）。</p> <p>・現代の労働や雇用の課題を、将来自らもかわる課題としてとらえ、その解決策について考え、企画書に福利厚生内容として表現する。</p>		◇			◇現代の労働や雇用の課題について多面的・多角的に考察し、自分の考えをわかりやすく表現している。
12	<p>【ねらい】商品がどのような経路で消費者に届くのかを考え、自分たちの起業準備をさせる（準備①）。</p> <p>・様々な商品の流通経路に、消費者として関心を持つ。 ・流通の仕組みや役割、流通の合理化の取り組みについて調べ、理解する。</p>	○		◇		○身近な商品の流通経路について積極的に調べようとしている。 ◇流通の役割や流通の合理化の取り組みについて、生産者、消費者の立場から多面的・多角的に考察している。

時	ねらい・学習活動等	評価の観点				○◇□☆ 評価規準
		関	思	技	知	
13	<p>【ねらい】金融機関の仕事を調査し、今までの調査結果から起業準備をさせる（準備②）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>身近な銀行の事例を基に、金融の働きに興味を持ち、起業の際に架空の金融機関から資金を借りるかを選択する。</li> <li>いくつかの事例の下にお金を貸してくれる銀行のメリットやデメリットを考えさせる。</li> </ul>	○				<p>○身近な金融機関について意欲的に調べ、自分たちの起業の行く末を左右する資金の貸借について積極的に議論している。</p> <p>☆ 返済期間が長い場合は実は利子として支払う金額が多くなる可能性があることなどを理解させる。</p>
14	<p>【ねらい】日本銀行の役割を知り、今までの調査結果をまとめて起業準備をさせる（準備③）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本銀行の果たしている役割について考え、日本の経済に対して大きな存在であることを理解する。</li> </ul>				☆	<p>☆日本銀行の果たしている役割や景気を安定させる金融政策の仕事について理解している。</p>
15	<p>【ねらい】景気変動が起きる中で利益を出すために、どのような手段や展開があるのかを追究させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>屋台村形式で行われる起業の時間において、一番利益を出すためにグループで考えた販売活動をする。</li> </ul>			□		<p>□利益を出すためにグループで練った案の効果が表れている。また、時間内に起きる景気変動の流れにもよく選択・判断して対処している。</p>
16	<p>【ねらい】起業の時間で生まれた自分たちの会社の利益について調査し、金融の課題を調査させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>なぜ自分たちの会社に利益が出たのか、出なかったのか調査追究する。</li> <li>前時の景気変動の起きる中で取り組んだ起業の時間を振り返り、金融の仕組みが安定していないと起きる諸問題を理解する。</li> </ul>		◇			<p>◇自分たちの会社の総括をワークシートに表し、効果的なプレゼン方法を選択してまとめている。</p> <p>☆ バブルになってしまう仕組みや不良債権の問題について理解する。</p>
17	<p>【ねらい】会社が利益を出し、存続し続けるための会社運営について価値判断させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「会社が利益を出して存続し続けるには、どのような会社運営をすることが良いのだろうか」という課題について調査した成果を発表する。</li> <li>中小企業をはじめとする日本の企業の現状や課題について調べる。</li> </ul>	○			□	<p>○日本の中小企業について意欲的に調べている。</p> <p>□「対立と合意」「効率と公正」という社会的な見方・考え方の技能を使って自分の考えを論じている。</p>

時	ねらい・学習活動等	評価の観点				○◇□☆ 評価規準
		関	思	技	知	
18	<p>【ねらい】 会社が利益を出し、存続し続けるための会社運営について価値判断させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「余剰利益で出た 2,000 万円を今後どのように使っていくか」という課題について自分の考え方を深めながら、調査追究する。</li> <li>・企業の社会的責任という立場を知り、余剰利益の使い道を各企業ごとに選択させる。</li> </ul>		◇			<p>◇会社運営が常に選択の連続であることを理解し、企業にとって一番良い選択が何であるのかを考え、その考えをわかりやすく表現している。</p> <p>☆ 会社の利益の使い道には様々な手立てがあることを理解し、企業の社会的責任などの経済分野に関する知識を身に付けている。</p>



4. 起業を体験する学習中に行う総合的な学習の時間の指導計画（4 時間扱い）

時	ねらい・学習活動等	○評価規準（評価の観点）
1	<p>【ねらい】 様々な専門家の方の講義やアドバイスを受けることで知識を深めさせる。</p>	
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・起業をしたことがある専門家の方から当時を振り返って学んだことを講義してもらい。その後、自分の企画している会社についてアドバイスをしてもらい課題を整理する。</li> </ul>	<p>○調査が十分にできない部分や疑問点などを整理し、自分たちが企画している会社に役立たせようとしている。</p> <p>（学習への主体的、創造的な態度）</p>
3	<p>【ねらい】 「起業する時間」に向けてモノ・サービスづくりをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科等の学習を通して得てきた知識や技能や、作成に当たる際に自分で調べてきた様々な情報源を基に、モノ・サービスづくりをしていく。</li> </ul>	<p>○自分たちの企業の商品で利益を出すことを課題とし、その課題解決に向けて意欲的に取り組んでいる。</p> <p>（課題設定能力・問題解決能力）</p>
4	<p>【ねらい】 一番利益を出すために、どのような手段や展開があるのかを追究させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・屋台村形式で行われる起業の時間において、一番利益を出すためにグループで考えた販売活動をする。</li> </ul>	<p>○利益を出すためにグループで練った案の効果が表れている。また、時間の中でさらに良い代替案を考えている。</p> <p>（学び方・ものの考え方）</p>

資料3 「起業を体験する学習」の全体の流れ

① 得来自分も働くことになるけれど、会社とはどのような所なのか？

- ・会社は何を目的に活動しているのかな？（第1時）
- ・なぜ、会社という組織をつくる必要があるのか？（第2時）
- ・商品の価格はどのようにして決めているのかな？（第3時）
- ・消費者のことをどのように考えているのかな？（第4・5時）
- ・よく聞くけど株式会社って何なのかな？（第7時）
- ・働く人はどのような権利を持っているのかな？（第9・10・11時）
- ・どのようにして商品を手元に届けるのか？（第12時）



② 「起業する学習」を通して、実際に会社をつくってみよう！



- ・自分たちの商品の価格はどうしよう？（第3時）
- ・どのような商品を生み出そうか？（第6～11時）
- ・この会社で働くこんなメリットがあるよ！（第10時）
- ・利益を出すためにはどのような手立てがあるかな？  
みんなで会議をして考えよう！（第12時）
- ・商品を大量につくりたいけれど、資金が足りないよ…、  
どうすればよいのかな？（第13時）

③ 会社があげた収益を分析し、経済活動の意味や意義を探ろう！

会社があげた収益を分析したら、今までの経済の勉強と大きく結びついて考えられたよ！



- ・私たちが生み出した商品を喜んでくれた人がいたね。
- ・働くことで生き生きとしていた従業員がいたね。
- ・新しい商品を生み出すことで経済が活性化する。

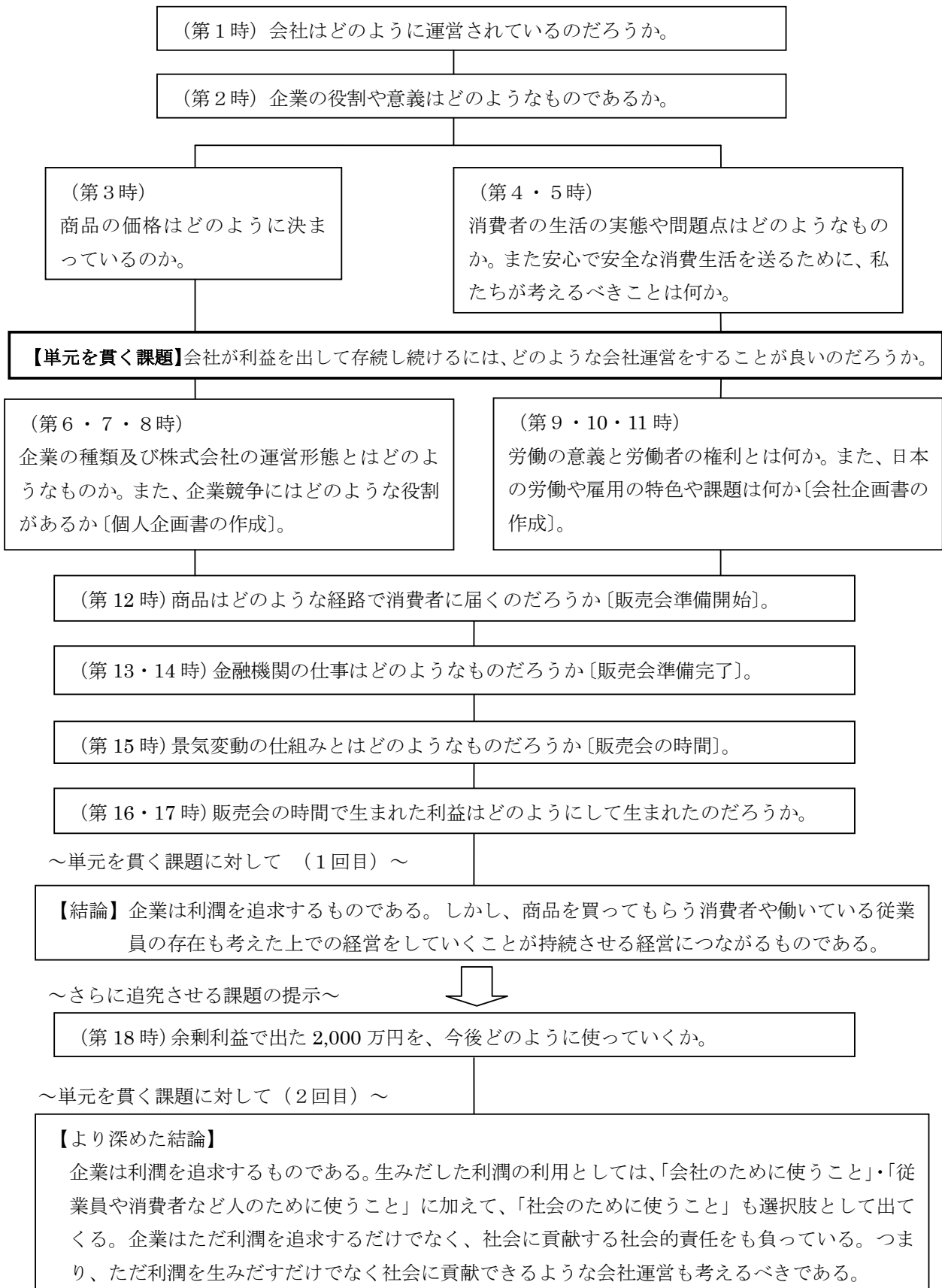
単元を貫く課題

「会社が利益を出して存続し続けるには、

どのような会社運営をすることが良いのだろうか」

資料 4 単元の構想図

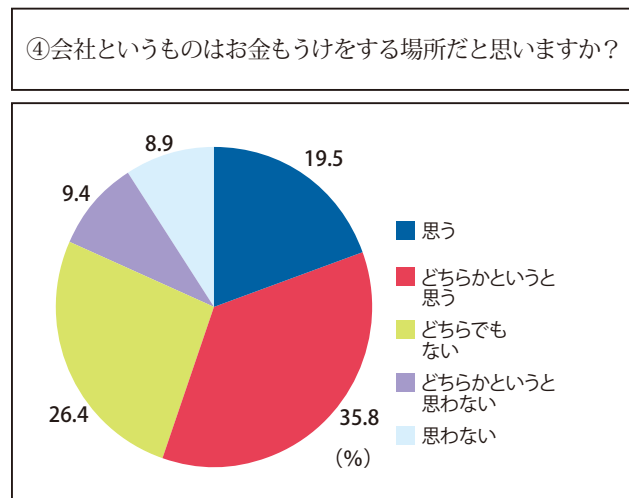
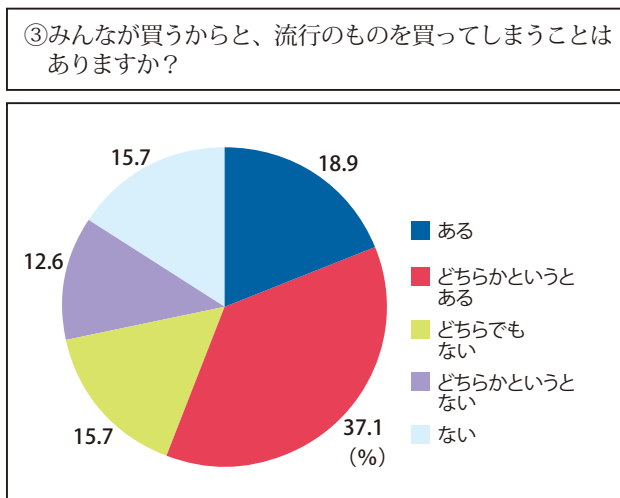
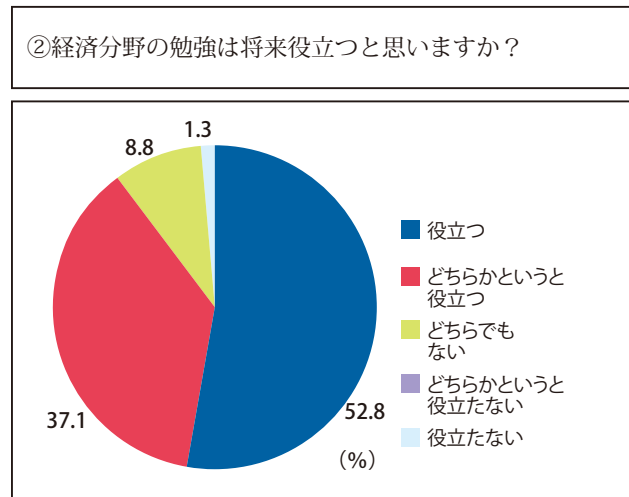
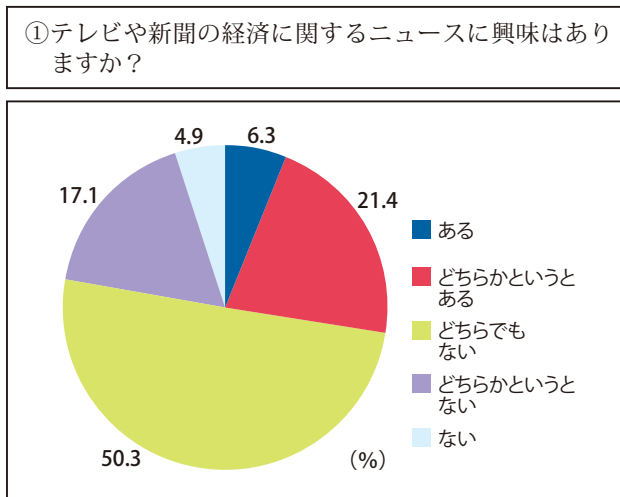
※枠内の〔 〕は「起業を体験する学習」の活動を示している



資料 5 生徒の実態 (本校 3 学年生徒 171 人)

本単元で学習する経済分野は、生徒にとってはなじみが薄いものであると捉えた。そこで、生徒に本単元計画に応じた経済分野のアンケートを取った。以下の項目から生徒の実態を調査した。

- ①テレビや新聞の経済に関するニュースに興味はありますか？
- ②経済分野の勉強は将来役立つと思いますか？
- ③みんなが買うからと、流行のものを買ってしまふことはありますか？
- ④会社というものはお金もうけをする場所だと思ひますか？



①の「テレビや新聞の経済に関するニュースに興味はありますか？」の問いに、興味を持つ人は 27.7%、興味を持っていない人は 22.0%となり、どちらでもない人は 50.3%となった。経済分野に関する興味が芽生えていないことが分かる。②の「経済分野の勉強は将来役立つと思ひますか？」の問いには、役立つと答えた人が 89.9%となった。①と②の比較から、経済分野の勉強が役立つものであるという意識はあるものの、まだまだ日常から興味を持って調べるまでの状態には到達していないことが分かった。

③の「みんなが買うからと、流行のものを買ってしまふことはありますか？」の問いには、あると答えた人が 56.0%となったことから、身近な消費活動が受け身状態になりやすいことが分かる。これは、お金に対する意識の希薄さや賢い消費者像が身に付いていないことから生まれた結果であると思ふ。

④の「会社というものはお金もうけをする場所だと思ひますか？」の問いには、思うと答えた人が 55.3%になり、勤労観に関する生徒の実態が分かる。本単元の実践が大きく変容を与えるものと期待したい。上記の結果から、社会参画の視点を持った本単元の実践が今こそ必要であると思ふ。

## 資料6 「適切な課題を設けて行う学習」について

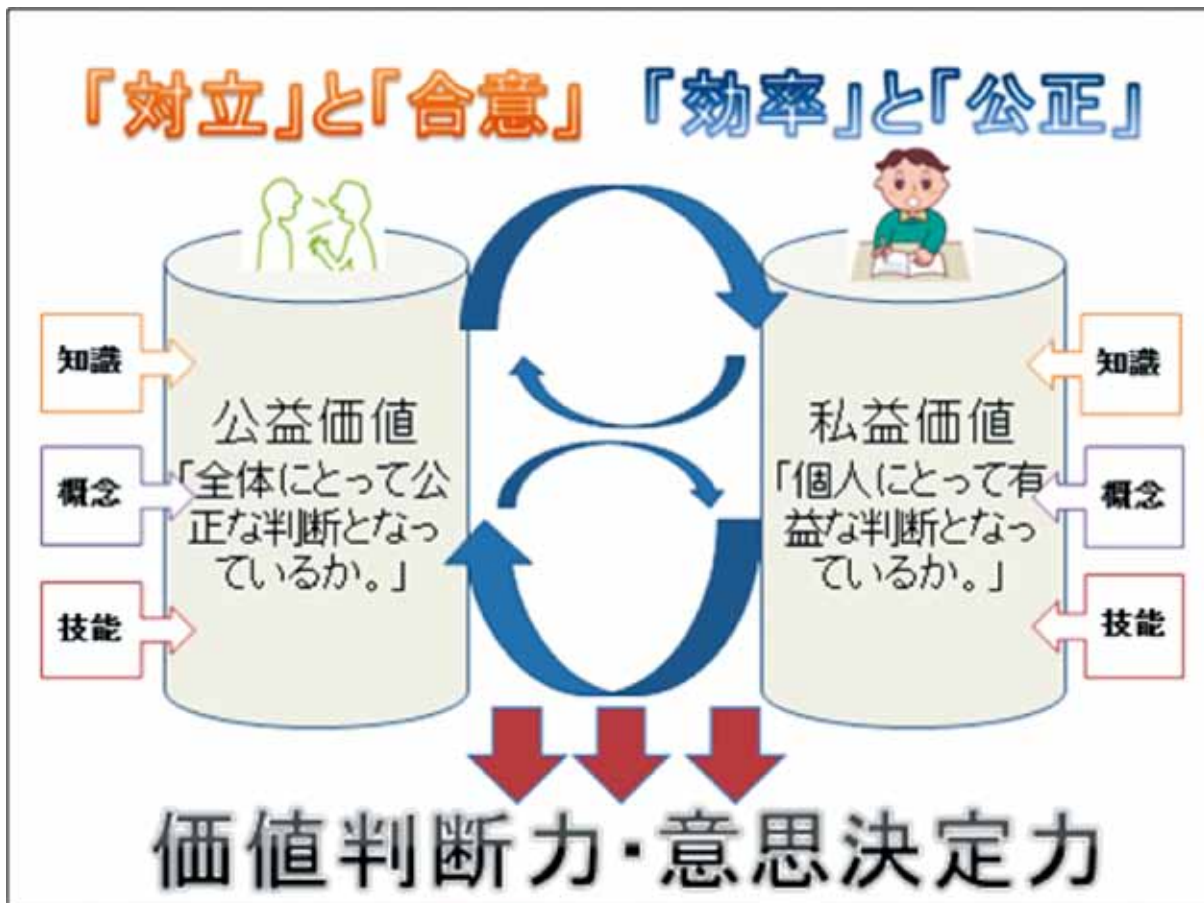
「適切な課題を設けて行う学習」という項目は学習指導要領の社会科（公民的分野）の「指導計画の作成と内容の取り扱い」の指導計画の作成上の配慮事項として書かれているもので、以下の内容となっている。

知識に偏りすぎた指導にならないようにするため、基本的な事項・事柄を厳選して指導内容を構成するものとし、基本的な内容が確実に身に付くよう指導すること。また、生徒の主体的な学習を促し、課題を解決する能力を一層培うため、各分野において、第2の内容の範囲や程度に十分配慮しつつ事項を再構成するなどの工夫をして、適切な課題を設けて行う学習の充実を図るようにすること。

上記の適切な課題とは「中学校から会社をつくろう」になる。さらに、この取り組みが上記の第2の内容の範囲や程度となる。そして、教材を再構成するという点としては学習指導要領の内容（2）私たちと経済のうち、「ア 市場の働きと経済」を再構成した。ここで扱う基本的な学べき内容として「ア 市場の働きと経済」に5項目記載されている。それを本指導計画と対応させて以下に検証する。

- ①消費生活を中心に経済活動の意義＝第4・5時「消費生活」、第16・17時「経済活動の意義」
  - ②市場経済の基本的な考え方＝第1・6～8・15時「企業の仕組みや企業競争」
  - ③生産や金融などの仕組みや働き＝第13・14時「生産の仕組みや金融の仕組みや働き」
  - ④企業の役割と責任＝第2・18時「企業の役割や意義、社会的責任」
  - ⑤社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について＝第9～11時「労働の意義と労働者の権利」
- 以上の学習指導要領で基本的に学ぶべき5項目の内容を「中学校から会社をつくろう」という課題では、教科書の配列や記述にとらわれることなく学習させる流れを生み出していると考えている。

## 資料7 本単元のイメージ図



資料 8 本実践の展開例 (18 / 18)

1. 目標

(1) 会社運営が常に選択の連続であることを理解し、企業にとって一番良い選択が何であるのかを意欲的に追求している。

【関心・意欲・態度】

(2) 企業の社会的責任などの経済分野に関する知識を踏まえた上で、自分の考えを適切に表現している。

【思考・判断・表現】

2. 展開

	○主な学習活動・学習内容	・教師の支援と指導上の留意点 ◎評価	資料
活動の開始 5分	<p>〈学習課題〉「余剰利益で出た 2,000 万円を、今後どのように使っていくか」考えてみよう。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>「<b>会社のため</b>」、「<b>人のため</b>」、「<b>社会のため</b>」の例を示す。 ※ただし、組み合わせが可能であることを補足しておく。2,000 万円の配分を考えさせる。</p>		
	○クラスの中で一番利益をあげた会社のプレゼンを聞く。	・一番利益をあげた会社の選択に注目させ、気づいた点をメモするように指導する。	ワークシート
活動の展開 ① 25分	<p>〈発問〉他の会社の意見をつかんだ上で、自分たちの会社の意思決定をしよう。</p> <p>○自分の意見をワークシートにまとめる（企業内で発表する企画書として構成する）。 <b>個人</b></p> <p>↓↓（生徒の記述例）↓↓</p> <p>例 ⇒ <b>会社のため</b> 1,000 万 <b>人のため</b> 600 万 <b>社会のため</b> ⇒ 400 万</p> <p><b>会社のため</b> … ・今後、新製品を生み出す時などのために今は取っておく。 ・もうけた分をさらに同じ製品を多く生産して利益を生み出す。</p> <p><b>人のため</b> … ・さらに、たくさんの人に買ってもらうために値段を下げる。 ・働いてくれた従業員のために給料を増やして今後のやる気につなげる。</p> <p><b>社会のため</b> … ・慈善団体に寄付し、企業のイメージアップを図る。</p>	<p>・生徒が書いた内容については、他の模範となる回答には線を引く。</p> <p>・他の人の意見を変えることができるように根拠を明確に話すことができるよう指導する。</p> <p>◎会社運営が常に選択の連続であることを理解し、企業にとって一番良い選択が何であるのか意欲的に追求している。【関心・意欲・態度】</p>	ワークシート (企画書)
	○クラスの座席を企業別に区切り、それぞれの企画書を発表して社長の司会の元で討論させ、それぞれ競い合わせる。 <b>小集団</b>	・教師は間に入り、討論がスムーズにいくように助言しながら回る。	ワークシート (企画書)
	○企業ごとに広報担当が発表する。 <b>全体</b>	・最後の決定は多数決（合議制）を経た後に社長が決定する。決定した事項は報告書に広報担当がまとめて発表するようにさせる。	ワークシート (報告書)
		・広報担当として企業を代表している形で言葉を選びながら発表するようにさせる。	



	○主な学習活動・学習内容	・教師の支援と指導上の留意点 ◎評価	資料
活動の展開 ② 15分	<p>〈発問〉もう一度、単元を貫く課題に迫って自分の考えをまとめてみよう。</p> <p>○本時の授業で分かったことを踏まえて論述させ、1回目の単元を貫く課題と比較させる。 個人</p> <p>○企業の社会的責任について言及できた生徒に発表させる。 全体</p>	<p>・机間指導の際に、企業の社会的責任の学習を通して1回目の単元を貫く課題と比べて意見が変容した生徒に注目して指導する。</p> <p>◎企業の社会的責任などの経済分野に関する知識を踏まえた上で、自分の考えを適切に表現している。 【思考・判断・表現】</p> <p>・意見が変わった生徒の発表と合わせて意見が変わらなかった生徒の意見も全体に伝えて共有する。</p>	ワークシート  教科書
	まとめ 5分	<p>○評価カードに本時の意見や感想を書く。次時の授業についての確認をする。</p>	<p>・分かったことや気づいたことを具体的に記述させるようにする。</p>

資料9 本実践の様子



会社での会議の様子



プリントタオルをつくった会社

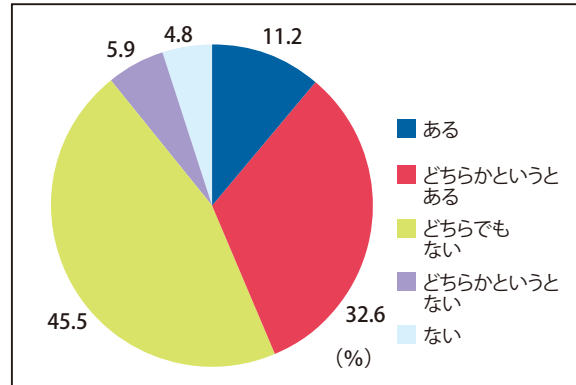
資料 10 最終アンケートについて

全体をとおしての最終アンケート（2013 年 12 月）を集計して生徒の変容を確認する中で考察する。

- ①テレビや新聞の経済に関するニュースに興味はありますか？
- ②経済分野の勉強は将来役立つと思いますか？
- ③会社というものはお金もうけをする場所だと思いますか？
- ④「起業を体験する学習」を通して経済を身近に感じることができましたか？
- ⑤「起業を体験する学習」以降、お金を扱うことに対しての思いは変わりましたか？

①テレビや新聞の経済に関するニュースに興味はありますか？

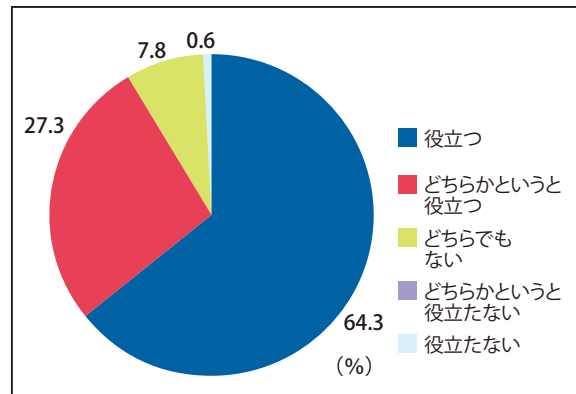
授業の内容により経済の学習が身近になったか確かめる項目である。興味が「ある」「どちらかという」と答えた生徒は 27.7%から 43.8%へ大きく増えた。特に大きく減った項目は興味が「どちらかという」という生徒である。17.1%から 5.9%へと減った。能動的な授業が続く「中学校から会社をつくろう」の取り組みが興味・関心を高めた結果になったと考えている。残り 4.8%の興味が無い生徒にどのような手立てを講じていくかが課題である。



②経済分野の勉強は将来役立つと思いますか？

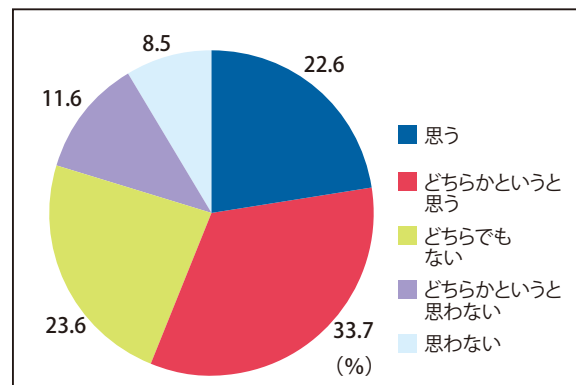
元々最初のアンケートでも「役立つ」「どちらかという」と答えた生徒が 89.9%と多かった項目である。91.6%と微増はしたが、中身を見ると「役立つ」と確信できた生徒が 52.8%⇒64.3%となった。大きな変容であると考えている。

①との関係から本校の生徒が経済分野に関して興味を持ち将来役立つと考えてくれる生徒が増えたことが「中学校から会社をつくろう」の授業を仕掛けた目的であったので、結果に組みの意義が見いだされた。



③会社というものはお金もうけをする場所だと思いますか？

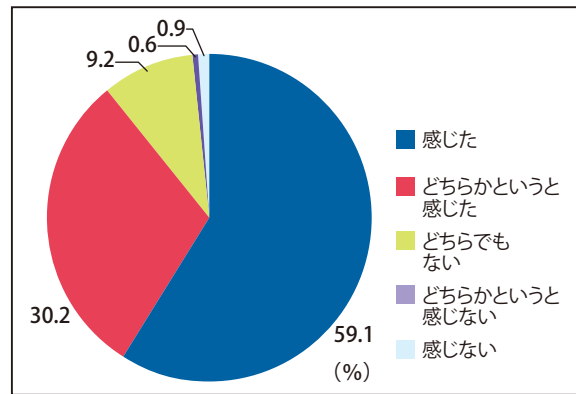
この項目が「企業の社会的責任」の研究授業に取り組んで変容を考察したい項目であった。この項目がすべて微増もしくは微減となっていたのが印象的な結果である。公民的分野で迫る価値判断は答えが1つではないものである。授業の展開が利潤を追求するのが企業であるとしていたら大きく流れが変わったであろう。「企業の社会的責任」を学んだことによってそれだけではないことを学んだはずである。研究授業前に中間アンケートを取ることで結果がはっきりと見えたであろう。こちらの取り組みへの仕掛けが甘かった。



④「起業を体験する学習」を通して経済を身近に感じることができましたか？

この「中学校から会社をつくらう」という適切な課題を設けて行う学習が効果をあげたか問う項目である。経済を身近に「感じた」「どちらかというと感じた」と答えた生徒は合わせて 89.3%となった。

この結果はこれまでのアンケート結果を総合して経済に関する生きた知識や技能を自分のものとするにつなげることになったと感じる。事実、今回の取り組みで社長を経験した生徒は定期テストにおいて大きな成果をあげることができた。



⑤「起業を体験する学習」以降、お金を扱うことに対する思いは変わりましたか？

最初のアンケートである「みんなが買うからと、流行のものを買ってしまふことはありますか？」の項目を言葉の意味を変えて問う項目である。「変わった」「どちらかというが変わった」と答えた生徒は 56.4%となった。学んだことを自由記述させた所からも、「以前より衝動買いがなくなった」や「お金を使うことが計画的になった」などの変容を感じ取ることができた。

社会科において身に付けさせたい基礎的な内容はおさえつつも、生徒の生活にまで変容をもたらすことができたと考えている。

